



福井版『さるかに合戦』のあらすじ



むかしむかし、^{あご}安居山*¹の麓で、サルとカニが渋柿をめぐる喧嘩を始めました。その喧嘩でカニは死んでしまい、喧嘩の相手だったサルは、あわてて故郷の猿ヶ嶋*²へと逃げていきました。

カニには、たくさんの子どもがいました。子ガニたちは、みんなで集まって、これからのことを相談しました。みんな、親ガニの^{かたき}敵をとりたいたいという気持ちは同じでした。でも、まだ小さかったので、今は我慢して、チャンスを待つことになりました。子ガニたちは、^{たかお}高尾山*³や^{おち}越知山*⁴へ登って神様に敵討ちを誓い、きたるべき日にそなえました。



月日は流れ、子ガニたちは、ついに敵討ちの旅へでることを決意しました。子ガニたちは、親戚じゅうを家によび、みんなの前で決意を語りました。そして、親ガニゆずりの長い爪を研いで、きび団子を腰に下げ、猿ヶ嶋を目指して敵討ちの旅にでました。

歩いていると、あちらこちらで腰に下げているきび団子のことをたずねられます。子ガニたちが「にっぽんいちのきび団子でござります」とこたえると、「ひとつくれたらおともをしよう」と子ガニたちの仲間になりました。



仲間はずんずん増えてゆき、子ガニたちは500匹を超える大軍勢になりました。子ガニたちは、そのまま東海道を東へ東へ、横歩きで進んでいきます。その大行進は、噂になって広まり、猿ヶ嶋の隠れ家にいたサルの耳にも届きました。

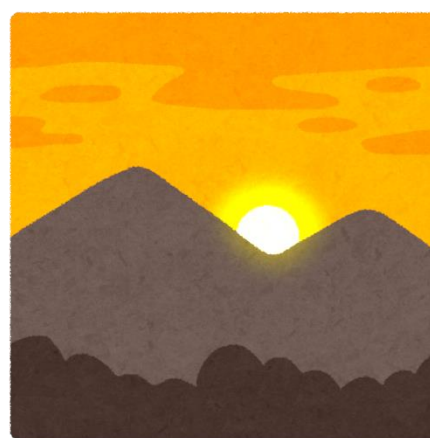
サルは、自分のところに向かっているという子ガニたちが気になって、遠江国*5まで偵察に出かけました。そこで目にしたのは、子ガニたちの大軍です。サルは、これにはかなわないと思い、急いで猿ヶ嶋の隠れ家に引き返していきました。



目的地の猿ヶ嶋にたどりついた子ガニたちは、少しも足どりをゆるめることなく、そのままサルの隠れ家へと向かいました。隠れ家について子ガニたちは、家のまわりをとり囲んでサルの退路を断つと、屯栗飛蔵どんぐりとびそうを先頭に、次から次へと家の中になだれこんでいきました。



サルは隠れ家から逃げ出そうとしましたが、ここには子ガニたちの仲間がまちかまえていました。牛之屎くそべたべた左衛門が転ばせて、定磐石堅助がのしかかります。こうなると、サルは身動きひとつとれません。月夜ガニ*6が手を挟み、ズワイガニが足を刺し、サワガニが耳を挟みます。そこに、ほかのみんなも集まって、自慢の爪で挟んで刺して、子ガニたちは、ついに親ガニの敵をとりました。



本望を遂げた子ガニたちは、勝ちどきをあげて敵討ちの成功を祝って、生まれ育った漆ヶ淵*7へと帰っていきました。

- *1 現在の福井市の西部。安居山は丹生山地北部の一山か
- *2 現在の茨城県猿島（さしま）郡。承平・天慶の乱を起こした平将門の本拠地
- *3 丹生山地の山
- *4 丹生山地の山。泰澄大師が修行したという言い伝えがある山岳信仰の霊地
- *5 現在の静岡県西部
- *6 やせたカニのこと
- *7 現在の福井市西北部。日野川と足羽川との落合にあった淵。足羽川が改修されて合流点が下流に動いているため、現在は残っていない



※イラストはイメージです